

2009年1月26日

出張報告書

京都FD開発推進センター

川面 きよ

日程：2010年1月23日(土)13:00~17:00

行事名：長崎大学FD・SDシンポジウム

主催：長崎大学高等教育研究センター

出張先：長崎新聞文化ホール

参加者：深野・川面(報告)

プログラム

第1部 <基調報告と討論> 司会：山地弘起(長崎大学)

報告1：「スタンフォード大学における教育支援・学習支援」

マルセロ・クレリシアリアス スタンフォード大学 CTL 副所長

指定討論 中島 平 東北大学大学院 教育情報学研究部 准教授

報告2：「学生とともに進めるFD」

木野 茂 立命館大学 共通教育推進機構 教授

第2部 <パネル討論：サバイバル戦略としての組織的教育改善> 司会：奥 恒行(長崎県立大学)

発題1 貴島 勝郎 長崎総合科学大学長

発題2 奥野 政元 活水女子大学長

発題3 安部 恵美子 長崎短期大学長

発題4 片峰 茂 長崎大学長

総合討論

所感

スタンフォード大学と立命館大学の取組報告も非常に興味深く示唆に富むものであったが、第2部の長崎地域の学長4名による自校での組織的なFD取組についての発表は、3月のFDフォーラムにおいて企画しているミニシンポジウムの運営や来年度予定している「京都FD執行部塾」の企画・運営を検討する上で大変参考になった。

国立、私立、女子大、短大とそれぞれ異なる歴史、仕組、理念をもつ高等教育機関の学長が揃い、それぞれの学内での取組の発表を行うことで組織的な教育改善取組の共通部分とそれぞれの教育機関に合わせた固有の課題が存在することが明らかになり、いわゆるFD活動といわれるものは固定化された取組を表すものではなく、やはり建学の理念と共に多様性を持って展開されるものだと改めて感じた。

ゆえに舵取り役であるトップマネジメントの役割や教育改善取組に対する理解を促進することは非常に重要なことであり、どのような企画内容であれば「京都FD執行部塾」において執行部におけるFD活動の理解を促進し、サポート体制を構築していただけることにつながるかについてFDer養成WGメンバーと共にさらに具体的な検討を重ねていきたいと思う。

以上